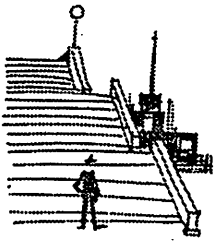
な模試問題作成能力には及ばないことは実感できるし、同じになる必要も感じない。受験に必要な高校での基礎的知識の既習を前提とした予備校の講習と高校の授業は本質的に違うと考えている。

「受験学力」を越えさせる教科指導、授業づくりに、これまで正面から実践的に議論されてきていない。いわゆる「可児高校」方式を乗り越える上でも、八木氏の「学問的な香りもあり、かつ大学受験にも対応できる高度な授業内容」、「生徒を主体的に参加させ」られる授業の創造を中心課題として、学校内外で進めたいと思う。

（みつい　ふじお＝県立新潟江南高等学校）



現人神（あらひとがみ）

「おれは五年生のときから、神様だなんて思っていなかった」

「まさか！」「ほんと？」

「天皇＝現人神」を信じてなかったというU君に、不審の顔を向けました。五十年前の戦争最末期の小学校六年生だった者の同窓会の宴席。

問われるままにU君は答えました。

「学校で習った『国史』だよ。後醍醐天皇なんか、兄弟げんかや親類と争いばかりやっているじゃない。そんなのが神様であるはずがないと思ったんだ」

「へえー、誰かに言わなかった」

「親父やおふくろにしゃべったら外では言うなよ。家のなかだけにしておけといわれたな」

U君の父は、上越線K駅前にパン屋を開いていた職人気質の人でした。おふくろさんも庶民の典型のような人です。

学校では、その頃しょっちゅう「テンノウヘイカ（＝天皇）ハ」「気ヲツケッー」というような具合で、条件反射のように身体がうごいて、「天皇＝現人神」は疑いのないことでした。

つい先日、二十代の人に「NHK〝春よ来い〟の春希も母親のリュウも天皇を神と信じていたようだが、ほんとにそうだったのか」と聞かれて、なぜそうなったのかはうまく説明できず、納得もしてもらえませんでした。戦後も半世紀になります。

それにしても、あの時代でもU君のように考え、それを否定しなかった親が身近にいたことを知ったのは愉快でした。U君は家業を継いでいます。

（Y）